

巻頭 先生なら、どうしますか？

家庭訪問の時の違和感を放置した私に、卒業直前の生徒が言った「入学手続きは、しませんでした」

宮崎県立延岡星雲高校 柳井健二

2 特集

どうすれば 知識は生きて働くのか？ その鍵を握る「中核的な概念」

- 4 課題整理 「中核的な概念」の理解を深める授業で、知識を「生きて働く」ものに 京都大学大学院 教育学研究科 准教授 石井英真 × VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇
8 実践事例1 国語 青森県立青森中央高校 笠井敦司
12 実践事例2 地理 兵庫県・神戸大学附属中等教育学校 高木 優
16 実践事例3 化学 北海道札幌北陵高校 佐藤友介
20 Commentary 学習指導要領の次期改訂の方向性を理解するポイント 京都大学大学院 教育学研究科 准教授 石井英真

24 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践

化学

茨城県・私立土浦日本大学高校 星野恵美子

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

28 ブラッシュアップ 授業実践

英語

愛知県・私立名古屋経済大学市邨中学校・高校 三原美樹

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

32 「やらされ探究」から「マイ探究」へ！

島根県立隠岐島前高校

探究学習の個別化と伴走体制の見直し

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

34 事例で深める！ 学習評価

石川県立金沢辰巳丘高校

「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

36 指導変革の軌跡

埼玉県立所沢北高校

指導の全校体制化

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

40 大学入試トレンド解説

2025年度大学入試結果の概況と 26年度大学入試に向けた指導のポイント

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

52 Reader's VIEW

https://view-next.benesse.jp/

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本/株式会社協同プレス 編集協力/有限会社ベンダコ 執筆協力/二宮良太 撮影協力/荒川 潤、岸 隆子、谷口 哲、松原 誠、ヤマグチイッキ イラスト協力/カモ ※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2025

# 生きて働くのか？

## 「中核的な概念」

インターネットの普及や生成AIの急速な発展を受け、「もはや知識の習得は必要ないのではないか」といった声も聞こえる中、学校現場の教師は知識の習得を最も重視しています（図1）。現行の学習指導要領においても、学校教育を通して育成を目指す資質・能力の1つの柱として「知識及び技能」が位置づけられている通り、知識の習得の重要性に変わりはありません。ただ、知識の理解の質に留意することが、これまで以上に求められています。それはすなわち、個別の事実に知識を単に覚えるのではなく、それらが相互に関連づけられ、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにすることです。

では、そうした「生きて働く知識」はどうすれば身につけられるのでしょうか。その鍵を握るものとして今、注目されているのが「中核的な概念」です。そこで今号は「中核的な概念」にスポットをあて、「どうすれば知識は生きて働くのか？」という問いについて、先生方とともに考えてまいります。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

### P.4 課題整理

「中核的な概念」の理解を深める授業で、知識を「生きて働く」ものに

京都大学大学院 教育学研究科 准教授 石井英真

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

### P.8 実践事例1 国語

3つの概念を身につけることを通じて、論理的に文章を読み書きする力を育む

青森県立青森中央高校 笠井敦司

### P.12 実践事例2 地理

考えたい問いを設定して、地理的に事象や課題を考える力を養う

兵庫県・神戸大学附属中等教育学校 高木 優

### P.16 実践事例3 化学

物質の現象に出合わせ、生徒が考える場面をつくり、深い理解に導く

北海道札幌北陵高校 佐藤友介

### P.20 Commentary

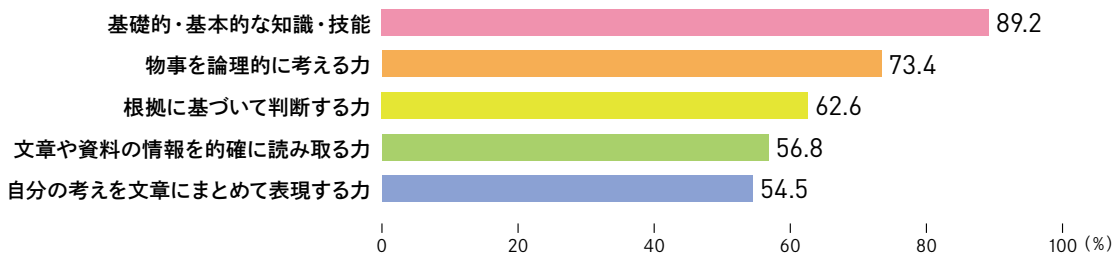
学習指導要領の次期改訂の方向性を理解するポイント

京都大学大学院 教育学研究科 准教授 石井英真

# どうすれば知識は その鍵を握る

図1 教師が高めようとしている生徒の資質・能力

Q. あなたは、授業を通して、生徒のどのような資質・能力を高めようと考えていますか。



\*複数回答。17項目のうち、上位5つを抜粋。 ※ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査2023」を基に編集部で作成。

図2 顕在化している課題 (抜粋)

## 2 学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

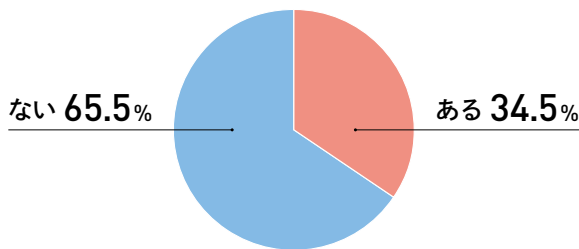
習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、**概念としての知識の習得や深い意味理解を**すること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題

下線部は、編集部によるもの。

※文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】」を基に編集部で作成。

図3 「中核的な概念」に対する現場の教師のイメージ

Q. 「概念としての知識の習得」や「深い意味理解」がどのようなものか、明確なイメージやご自身なりの解釈がありますか。



※『VIEW next』高校版読者モニターアンケート結果より(アンケートは2025年5月にウェブで実施。有効回答数は113)。

## 先生方とともに考えたい「問い」

どうすれば知識は  
生きて働くのか。  
その実現に向けて  
どのような授業が  
求められるのか。

2 024年12月に中央教育審議会に諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透が道半ばであること、具体的には、「概念としての知識の習得や深い意味理解をすること」などが顕在化している課題の1つとして示された(図2)。弊誌の読者モニターにおいても、「概念としての知識の習得」や「深い意味理解」について明確なイメージを持っているという教師は約35%にとどまっている(図3)。「中核的な概念」とも呼ばれるそれらは、知識を「生きて働く」ものとして習得する上でも鍵となる。そこでは、「中核的な概念」とは何か、それはどのような授業を通して身につくのか、考えていく。